

## 共同研究支援報告書

提出日	
氏名	辻知陽
所属大学名	金沢大学
職位	協力研究員(学術振興会特別研究員)
研究題目	自閉症モデルマウスを用いた自閉症主症状改善効果を持つ漢方薬のスクリーニング
内容報告	ASDモデル動物を作成し、社会性行動障害改善効果がある薬物・化合物のスクリーニングできる行動実験系を開発する目的で共同研究を行っている。抗てんかん薬のバルプロ酸(VPA)を妊娠12.5日目の母体に投与すると、生まれてくる仔は、社会性相互作用障害がおきることが報告されている。申請者らは、このASDモデルマウスを用いて、発達期の母親分離による超音波発生頻度(社会性行動の一つ)を解析し、オキシトシン投与により発生パターンが変化することを報告した(Neurosci Lett, 2021)。さらに、成体雄マウスを用いて、社会性行動障害改善効果がある漢方薬を同定し、その作用機序の解明を行っている。
成果(論文発表等)	Tsuji T, Mizutani R, Fujisaku T, Furuhashi K, Minami K, Pinyue F, <u>Zhong J</u> , and <u>Tsuji C</u> *. Oxytocin administration modulates the complex type of ultrasonic vocalisation of mice pups prenatally exposed to valproic acid. Neurosci Lett. 2021 Jul 27;758:135985. (* corresponding author)